

総務部 「平成22年度第2回沖縄振興講演会」を開催

soumubu

6月18日（金）、那覇第二地方合同庁舎にて、平成22年度第2回沖縄振興講演会が開催され、沖縄総合事務局本局の課長相当職以上の職員を中心に約40名が出席しました。

この講演会は、沖縄振興に携わる当局職員等の意識喚起等に資するとともに、当局における各部間が連携し「総合性」を発揮するために進められている各取組を補完することを目的に開催したものです。

今回の講演会では、竹澤沖縄総合事務局長のあいさつの後、財務省財務総合政策研究所研究部長である田中修氏から、中国経済をテーマとした「中国経済の現状と課題について」と題した基調講演がありました。

田中氏は、現在、好調に見える中国経済について、様々な指標等から中国経済が抱える問題について、「第二次産業に依存した『産業構造のアンバラ

ンス』、成長が過度に投資に依存している『需要構造のアンバランス』、農村部や同じ地域内の貧富の差が拡大している『所得構造のアンバランス』等がある」こと、また、今後の経済政策について、「積極的な財政政策と適度に緩和した金融政策を引き続き行うこととされているが、新たな情勢に応じて柔軟に対応する必要があるのではないか」等の説明がありました。

講演後、「日本が中国に対して貢献できること」についての質問に対し、田中氏からは、「既に、環境・省エネ・エネルギー問題について協力しているが、今後は、食の安全や労働災害等の『安全・安心対策』や『高齢化問題』について、それぞれの取組の先端をいっている日本が独自のモデルを構築し、それを示すことが重要な役割となるのではないか」といった提案がある等、活発な議論が交わされました。



基調講演 田中 修氏



会場の様子

総務部 経済産業部 「下請法」の遵守により公正な下請取引を！

～下請取引適正化特別推進講習会を開催～

soumubu

keizaisangyou

下請取引の適正化については、従来から、下請代金支払遅延等防止法（以下「下請法」という。）の厳正な運用と違反の未然防止、下請中小企業振興法（以下「下請振興法」という。）に基づく振興基準の遵守の指導等を通じ、その推進を図っています。

沖縄総合事務局では、下請取引適正化の推進を徹底するため、去る6月16日に那覇第二地方合同庁舎1号館大会議室において、親事業者の下請取引担当者等を対象に下請取引適正化特別推進講習会を開催しました。

下請法及び下請振興法等の概要の説明とともに、（財）全国中小企業取引振興協会から、下請事業者のインターネットを用いた新たな取引先の開拓を支援するビジネス・マッチング・ステー

ション事業について、下請かけこみ寺（（財）沖縄県産業振興公社）から、下請取引などの企業間取引に関し、専門相談員や弁護士による無料相談等を行う下請かけこみ寺事業について、それぞれ紹介を行いました。

当局では下請法に関するご相談やご質問を受け付けています。また、本年11月に今回の講習会と同様の講習会（無料）を開催する予定としておりますので、下請取引担当者的下請法等に対する理解を深める機会としてご活用下さい。



講習会の様子

相談窓口

内閣府沖縄総合事務局
総務部公正取引室
（TEL. 098-866-0049）
経済産業部中小企業課
（TEL. 098-866-1755）

（財）沖縄県産業振興公社
下請かけこみ寺
（TEL. 098-859-6237）

農林水産部 「消費者の部屋」特別展示(もずくの美味しさを広げよう!)を開催

Nourinsuisan

農林水産部林務水産課では、6月21日から25日まで、本局1階の行政情報プラザにおいて「もずくの美味しさを広げよう!」をテーマに「消費者の部屋」特別展示を開催しました。

「もずく」は、沖縄県の海面養殖業生産量の9割以上を占める主要水産物で、平成21年産は約1万1千トンを生産していますが、消費低迷や価格の下落等で苦境に立たされています。



今回の特別展示は、「もずく」の収穫最盛期(4月～6月)にあわせて、「もずく」の特性や養殖方法、多様な調理方法等について、パネル展示やもずく料理レシピ等で紹介することにより、一般消費者の理解を深め、「もずく」の消費拡大と「食育」を推進することを目的として開催したものです。

特別展示の開催に当たっては、沖縄県漁業協同組合連合会をはじめ関係漁業協同組合から提供されたもずく加工品の展示やもずく料理レシピの配布、「もずく等水産物消費拡大普及員」(沖縄県委託事業)による「もずく料理」の試食会等を行いました。

この結果、展示期間中450名を超える来場者がありました。

また、来場者を対象に実施したアンケート調査結果によると、「いろいろな調理方法があることを初めて知った。」



「もずくの料理方法の普及・啓発が必要。」などの意見が多数寄せられました。今後は、これらの意見を沖縄県及び沖縄県もずく養殖業振興協議会など関係機関へ情報提供を行うことにより「もずく」について一般消費者の理解を深め、「もずく」の消費拡大を推進していきます。

農林水産部

平成21年度「食料・農業・農村白書」「森林・林業白書」「水産白書」に関する沖縄ブロック説明会を開催

Nourinsuisan

6月30日に合同庁舎1号館において「食料・農業・農村白書」、「森林・林業白書」、「水産白書」に関する沖縄ブロック説明会を開催しました。

各白書の取りまとめに参加した農林水産省の担当者から、各白書の説明がありました。食料・農業・農村白書で



説明に聞き入る参加者

は、今年3月に取りまとめた食料・農業・農村基本計画や食料自給率等について、森林・林業白書では林業再生に向けた生産性向上の取組や地球温暖化防止としての森林の役割等について、水産白書では未利用魚の活用等やマグロ類の保存管理をめぐる世界の動きについて説明がありました。

当日は、県や市町村、農業団体、一般企業等の関係者が100名近く来場し、熱心に説明に聞き入り、意見交換がなされました。

また、会場内に「移動消費者の部屋」を設置し、農林水産行政を身近に感じていただきました。



移動消費者の部屋

各白書は農林水産省のホームページに掲載されておりますので、是非御覧下さい。

●「食料・農業・農村白書」

http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h21/index.html

●「森林・林業白書」

http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kikaku/100427_1.html

●「水産白書」

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/index.html>

開発建設部

平成22年度防災訓練(風水害)を実施

kaihatukensetu

6月17日(木) 沖縄総合事務局開発建設部では、関係機関(沖縄県、沖縄気象台、国土地理院沖縄支所、第十ー管区海上保安本部、自衛隊、防災エキスパート事務局(沖縄建設弘済会)、災害支援協定締結協会(沖縄県建設業協会、日本道路建設業協会沖縄支部、沖縄県舗装業協会)と連携し、平成22年度防災訓練(風水害)を実施しました。訓練は、梅雨前線の影響による時間130~150mmの集中豪雨があり、道路、ダム、公園、港湾、官庁営繕施設等が被災したとの想定の下に行いました。今回の訓練では、自治体支援として沖縄県へのリエゾン派遣による情報収集及び沖縄県からの派遣要請を受け、排水ポンプ車派遣支援やTEC-FORCE隊員の派遣支援訓練を行いました。各現場では防災ヘリや



衛星通信車等により、現地被災状況(想定)の災害対策本部への映像配信を行うなど保有する災害対策車両を駆使した本番さながらの訓練を行うことができました。訓練を終え、参加者の防災に対する意識高揚と、改めて国民の財産を守るという使命を再確認しました。



運輸部

～平成22年『海の月間』について～

unyubu

四方を海に囲まれている我が国は、輸出入貨物の大部分を海上輸送に頼るなど様々な形で海と深く関わって発展してきました。沖縄県も例外ではなく、琉球王国時代から海上交易を通して発展してきました。

「海の日」は、このような海の恩恵に感謝し、海を大切にする心を育むことを目的に平成8年に制定されました。

この「海の日」の意義を広く理解していただくため、7月を「海の月間」とし、全国各地において多彩な行事が展開されました。管内においても「那覇観光キャンペーンレディによる一日船長」、「みなとフェスタ」、「ビーチのクリーンアップキャンペーン」、「中学生海の絵画コンクール」等の行事が行われました。

「ニューくめしま」の一日船長を務めた那覇観光キャンペーンレディの上原絵奈さんは「船の旅は私達に夢とロマンを与えてくれます。今後とも安全航海に努めて頂き、明日を担うシーマンとして頑張ってください。」と、船員や関係者に向けてメッセージを送りました。

この他、「海事関係功労者表彰式典」を22日、那覇市内のホテルで開催し、海運、

優良船員、海洋環境保全関係者等14名を表彰しました。

また、同式典において「中学生海の絵画コンクール」受賞者への表彰式も行われ、沖縄総合事務局局長表彰・金賞受賞の島袋彩さんをはじめ、10名の中学生が表彰されました。



「ニューくめしま」一日船長



海事関係功労者表彰式典